

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ① 生徒一人ひとりが自己の価値に気付き、自尊心を高め、夢や希望の実現に向かって力を尽くす態度を育成する学校。
- ② モノづくり教育を通して創造する力を高め、日常の問題を解決し、社会に貢献する創造的人材を育成する学校。
- ③ 発見と感動により、学ぶことの喜びや大切さを教え、生涯学習を可能にする最低限の学力と意欲を育成する学校。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 生徒一人ひとりの学習歴や学力に応じたきめ細かな教材や指導方法の工夫を行い、教員間で生徒の情報を共有して指導を行うなど、個別指導の充実を図る。
- (2) 公開授業や研究授業などを取り入れた校内研修と、授業アンケートを効果的に活用した授業改善に取り組み、授業力を向上させる。
※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度「授業はわかりやすく楽しい」（平成 27 年度 65%）を毎年 5%引き上げ、平成 30 年度には 80%にする。
- (3) ICT 教育の充実と、さらに今後期待されるロボット技術やプログラミング技術など、ICT ものづくり技術教育を充実させ、生徒の創造性を高める。

2 基本的生活習慣の育成

- (1) 登校時の校門指導を充実することにより、社会生活を送る上で必要な「挨拶」「言葉遣い」「時間を守る」ことを身に付けさせる。
学校に来られない生徒、学校に来て授業に入れない生徒に対して、中学校ならびに家庭と連携することにより指導の充実を図る。
- (2) 食に対する教育を充実することにより、健康な身体の育成を促す。
※中途退学する生徒（平成 27 年度は、平成 26 年度の約 10%減）を平成 30 年度までにあと 15%減少させる。

3 安全で安心な学校づくり

- (1) 生徒が安心して授業を受けることができるように、授業を受ける環境を整備し、授業規律を守らせることを徹底する。
- (2) あらゆる教育活動において人権教育を進め、相互が敬愛し、互いの信頼の上に立って人権が尊重される心の通う教育を実現する。
- (3) 教育相談体制を充実させ、課題を抱える生徒の早期発見・支援を行う。
- (4) 高校生活支援カードなどを活用し、すべての生徒に対して適切な指導と必要な支援を行い、自立と社会参加に向けて一貫した教育支援を継続して行う。
※生徒向け学校教育自己診断において、「学校に行くのが楽しい」と答える生徒（平成 27 年度 60%）を平成 30 年度までに 80%に引き上げる。

4 キャリア教育の推進

- (1) ハローワークや若者サポートステーション、地域の企業等と連携して、望ましい職業観・勤労観を養うと同時に、自己理解を深め、主体的に進路選択できることをめざし、職業適性や個々の特性を考慮した進路選択支援と職業能力の充実による就労への準備を進める。
※インターンシップの実施
- (2) 生徒への進路保障を充実させるために、求人企業の量と業種の拡大に努めるとともに、生徒にライフプランニングを考えさせ、職業意識を高める。
※在学中の就業率（平成 27 年度 65%）を、毎年 5%引き上げ平成 30 年度には 80%にする。
※平成 26 年度末の就職内定率（平成 27 年度 80%）を、毎年 5%引き上げ、平成 30 年度末には 95%にする。
- (3) アイデアを形にする方法を習得させ、積極的にモノづくり系コンテストへ出品させる。
※大阪発明くふう展への出品と入賞をめざす。

5 地域連携の推進

- (1) 地域のイベントやボランティア活動に積極的に参加させ、コミュニケーションスキルやボランティア精神を養うとともに、生徒のセルフエスティーム（自尊感情）を高める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 2 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導】 自己診断(生徒)では「授業は分かりやすく楽しい」59.4% (H27 65%) となり評価が下がったが、「教え方に工夫をしている先生が多い」75.3% (H27 70%) と上昇していることから、教材研究や教員相互の授業見学などの成果が上がっていると思われる。数値からは相反する結果となっていることから、教材の内容が生徒の習熟度に対し高度になっている可能性もあり、精査が必要である。</p> <p>【生徒指導】 昨年に引き続き基本的生活習慣の育成を図るため、全教職員による登校時の校門指導にあわせ授業中の校門・巡回指導を行うと同時に生徒による地域の清掃活動を軸にしたボランティア活動をおこなってきた。自己診断(生徒)では、「学校では、生活規則や学習習慣などの基本的生活習慣の確立に力を入れている」72.4% (H27 76%・H26 69%) と昨年よりは減少したが比較的高い水準であると考えている。「学校生活についての先生の指導は納得できる」79.3% (H27 73%・H26 75%) と向上している。約 8 割の生徒がこのように感じている要因は、少人数という利点を活用して丁寧</p>	<p>第 1 回 (7 月 4 日) 学校経営計画について、各委員より前回との違いや新しく付け加えた地域連携などの説明を求められ説明を行ったところ、課題が整理され、わかりやすいというコメントを頂いた。前年度からの課題である近隣住民からの苦情については、近くのコンビニエンスストアに掲示してあった「佐野工科定時制の生徒の入店お断り」の張り紙を外していただくことができたという事例報告ができ、引き続き「地域連携」を充実させるなど生徒の指導をお願いしたいとの要望があった。</p> <p>第 2 回 (11 月 4 日) ICT を活用した実習授業見学について、人数も少なくほぼ個別対応なので、生徒の気持ちも解きほぐれているのか、非常に楽しそうであった。引き続き指導をお願いしたい。というコメントを頂いた。</p> <p>「キャリア教育の推進」において、学校斡旋でなく、引続き在学中の職場に採用される生徒について雇用条件等を確認しない生徒がいる現状について、非常に危険で、生徒自身に不利益になっていないのか？ハローワークを介さないにしても、会社としては雇用契約書を作っているところもある。生徒だけでなく、学校からそのような会社に情報を伝えるなど指導しては行かないか。という意見をいただいた。</p>

<p>な指導が実現できていると自負しているが、さらなる向上をめざしたい。</p> <p>進路指導においても、昨年度変化がなかった「将来の進路や生き方について考える機会がある」は72.2%(H27 80%・H26 77%)「学校は、進路についての情報を知らせてくれる」80.9%(H27 83%・H26 75%)と数値は下がった。明確な理由はつかめていないが次年度はキャリア教育のカリキュラムを充実させたい。</p> <p>【人権教育】</p> <p>昨年度に引き続き、SSW・CCを通じて外部機関との連携や専門的な対応に役割を果たし、安全で安心な学校づくりに励んだ結果、自己診断(生徒)では「人権について学ぶ機会がある」82.2%(H27 83%)と昨年度同様高い値を示した。昨年同様、日常において「いじめは絶対に許さない」「お互いを尊重する」などを徹底し、人権HRにおいて教材を研究し、学校の課題にあった教材集を作成し、授業展開をした結果であると思われる。「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」72.1%(H27 71%・H26 68%)においても年々上昇しているが僅かである。例年実施している「いじめアンケート」においては本校でのいじめ事象は認められず、今後も引き続き現在の方針を継続したい。</p>	<p>第3回(2月23日)</p> <p>学校教育自己診断の結果より、多くの質問項目で肯定的な回答の割合が高く評価できるという意見をいただいた。また、「学校のホームページをよく見る」という設問や「校長の話は興味深くわかりやすい」という設問に対し、学校教育の評価指標として適切ではないのではないかという意見をいただいた。</p> <p>今年度インターンシップの実績がなかったことに対し、定時制の生徒はアルバイトや仕事に就いているものが常時6割いることから、仕事を休んで無給で参加するインターンシップに興味を示さないなどの説明を受けた。定時制高校の現状からみて評価指標となる取組にインターンシップを入れる必要があるのか疑義を感じるという意見をいただいた。</p> <p>キャリア教育の推進において、モノづくりコンテストの成果は興味深いところである。次年度はさらに多くの実績がでるように頑張っていたきたいという意見をいただいた。</p> <p>確かな学力の育成において、本年度導入したICTものづくり教育の具体的な展開を期待された。</p> <p>内容は多岐にわたっており、明確な評価は難しいが、新たな取り組みや高い目標と展開案まで考えており概ね評価できるとされ、今後の展開に期待したいという意見をいただいた。</p>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 生徒一人ひとりの学習歴や学力に応じたきめ細かな教材や指導方法の工夫を行い、教員間で生徒の情報を共有して指導を行うなど、個別指導の充実を図る。</p> <p>(2) 生徒に発表する機会を与え自身に自信を持たせる。</p> <p>(3) 公開授業や研究授業などを取り入れた校内研修と、近隣中学校への連携を図るために相互に授業見学・研究協議を行い授業力の向上を図る。</p> <p>(4) ICT モノづくり教育の導入</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考査1週間前は、補充授業期間を設け、学習内容の振り返りを行う。また、友人との教えあいを通して、学習内容の理解を深める。 ・ 授業マナーを守るために、授業中は、机の上に授業に関係のない物を置かせない、携帯電話を使用させないことを徹底する。 ・ 教科担当者会議を開催し、生徒の情報を共有する。また、個別の支援や指導が必要な生徒を抽出し、各セクションでの対応を検討する。 ・ 「国語」「数学」「英語」を中心にした本校独自の検定を実施することにより基礎学力の向上を図る。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年次の課題研究発表会を実施する。 ・ 授業の中で生徒に発表する機会を増やす。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公開授業期間を設定し、その期間中に2科目以上の授業を見学する。授業担当者は、そのシートを参考にして、授業力・指導力の向上に努める。 ・ 教育センター等の研修に積極的に参加し、その報告書等を学校全体で共有する。 ・ 近隣の中学校と連携を取り、授業見学ならびに研究協議を行う。 <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ロボティクス教材を導入し、マイコンによる制御課題を、科目「課題研究」などで取り入れる。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間に4回の補充授業期間を設け、授業に遅れている生徒に対して、指導の充実を図る。授業担当者以外の空き教員が入り込み、指導の充実を図る。 ・ 授業中の飲食はゼロ、携帯電話の使用はゼロにするよう全教員で指導する。 ・ 教科担当者会議を年4回実施する。支援を要する生徒については、支援人権室を中心に支援方法を決定する。生徒指導上に問題がある生徒に対しては、担任を中心に指導方法を決定する。 ・ 学校設定科目「基礎教養」での実施を中心に、各教科の内容を検討する。ステップアップできるような教材を制作する。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文章やHPで保護者へ連絡し、参加を促す。 ・ 授業アンケートを通じて生徒意識を調査する。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全教員が、二つ以上の授業を見学し、教頭に評価シートを提出する。 ・ 研修報告書の冊子を準備し、すべての教員が閲覧できるようにする。必要に応じて担当者が職員研修を行う。(年に2回) ・ 近隣中学で授業見学を実施し、中学校の先生方と研究協議を行う。 <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 簡単なマイコン制御のモノづくりができる。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間4回の補充授業を実施し、平均すると1/3を上回る生徒が参加し、お互いに教えあう姿も見られた。(○) ・ 授業中の携帯電話への指導は徹底できているが、目を離すとゲームやメールをしている生徒がおりゼロとまではいかない。今後も継続して指導していきたい。(△) ・ 生徒の情報交換会を年3回実施した。ケース会議についてもすでに40回以上、開催した。(○) ・ 本校独自の検定までは制作することができなかったが、「基礎教養」において習熟度別の授業を実験的に展開している。(△) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題研究発表会を実施した。また、それぞれの教科において授業の中で発表する機会を意識的に増やせた。(○) <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公開授業期間を実施し、活発に相互の授業見学ができた。しかし、評価シートの徹底にまでは至らなかった。(○) ・ 校内で伝達研修を2回実施した。しかし研修報告書の冊子は徹底できなかった。(○) ・ 担当者の引継ぎがうまくいかず近隣中学での授業見学は、今年度実施できていない。(△) <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ロボティクス教材を10セット導入し、情報系列の実習で利用したほか、駅前イルミネーションの製作にも利用した。(◎)

<p>2 基本的 生活習慣の 育成</p>	<p>(1)家庭・中学校との密接な連携と生徒とのコミュニケーションをとる機会の増加により、社会生活を送る上で必要な「挨拶」「言葉遣い」「時間を守る」ことを身につけさせる。</p> <p>(2)保健ホームルームを充実させることにより基礎的知識を習得させる。</p> <p>(3) ボランティア活動を推進する。</p>	<p>(1) ・担任以外の全教職員による登校時の校門指導の実施による生徒とのコミュニケーションをとる機会の増加、生徒理解の促進、信頼関係の構築を通じて基本的習慣を身に付けさせる。また、生徒の居場所づくりを通して生徒の自己肯定感の育成に役立てる。</p> <p>・不登校生徒への、家庭との連絡・家庭訪問を強化し安心して登校できる学校環境を作る。</p> <p>(2) ・性の基本的知識を習得させる。また、薬物乱用の禁止について徹底した指導を行う。</p> <p>(3) ・地域の清掃活動を軸にしたボランティア活動を全校生徒で行うことにより奉仕の精神を身に付けさせる。</p>	<p>(1) ・生徒の体調を管理すると同時に、生徒とのコミュニケーションを図り、信頼関係を構築する。「挨拶」「言葉遣い」「遅刻」など担任指導をこまめに行い基本的生活習慣を身に付けさせる。当番以外に自主的に参加する教員を増やす。</p> <p>・中途退学する生徒を5%削減する。(平成27年度63名)</p> <p>(2) ・性の基本的知識ならびに薬物乱用について講演会を実施する。(それぞれ1回、合計2回)</p> <p>(3) ・年間3回の定期考査の前日に地域の清掃活動を行う。(1年1回2年1回3年1回)</p>	<p>(1) ・登校時の校門指導は、教員がその必要性を感じて積極的に行っている。4月に近隣のコンビニでの指導を1ヶ月間継続して行い苦情が激減した。挨拶も定着してきている。しかし、遅刻生徒は、相変わらず多数おり今後も遅刻の減少に向け努力していきたい。(○)</p> <p>・家庭訪問を中心とした家庭との連絡を積極的に行った結果、中途退学する生徒は大きく減少した。27年度の62人に対し28年度は36人に抑えられた(◎)</p> <p>(2) ・計画通り2回の講演会を実施できた。(○)</p> <p>(3) ・地域の清掃活動も定着し、生徒にボランティアの精神も芽生えてきた。今後も継続して指導していきたい。計画通り3回実施できた。(○)</p>
<p>3 安全で 安心な 学校づくり</p>	<p>(1)生徒が安心して授業を受けることができるように授業環境を整備し、授業規律を守らせることを徹底する。</p> <p>(2)あらゆる教育活動において人権教育を進め、相互が敬愛し、互いの信頼の上に立って人権が尊重される心の通う教育を実現する。</p> <p>(3)生徒支援体制を組織化し、学校全体で課題のある生徒に適切な支援をおこなう</p> <p>(4)すべての生徒に適切な指導と必要な支援を行い、自立と社会参加に向けた教育支援を行う。</p>	<p>(1) ・配慮を要する生徒をはじめ、全ての生徒にとって「わかる、できる」授業をめざし、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを推進する。 ・中学校との連携を密にし、生徒の状況を把握する。 ・HR教室ならびに校内の清掃活動を行い環境の美化を徹底する</p> <p>・生徒が気軽に相談できる教育相談室をめざして環境整備を行う。</p> <p>(2) ・「安全で安心な学校づくり推進事業」で得られた成果をもとに、人権教育の教材を研究し、学校の課題にあった教材集を作成する。</p> <p>(3) ・生徒支援の中心組織として、生徒支援室を開設し、重複業務を整理し、役割を明確にする。生徒支援委員会を定期的実施し、課題の情報収集や、指導方法の議論を行う。個人支援を充実することにより、全体支援につなげていく。 ・SSWを有効活用することにより、外部機関と連携を図りながら支援の充実を図る。</p> <p>(4) ・高校生活支援カードにより生徒・保護者など関係者と連携し、生徒一人ひとりの実態把握に役立てる。カードの内容を関係者の意向をよりくみ取れる様式へ改定する。</p>	<p>(1) ・授業のユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりに関する職員研修を、実施する。(年1回) ・中学校との情報交換会を行う。(年3回) ・全学年、毎週月曜日のHRの時間を利用して清掃活動を行う。 ・相談室だよりを発行し、(月1回)SCを積極的に活用することをPRする。外部の相談窓口についても紹介していく。</p> <p>(2) ・3つのテーマで課題設定を行い人権教材の作成を行う。 ・人権HRのコーディネートを中心に行う。(年1回は講演)</p> <p>(3) ・支援人権室会議を月に1回以上、また、必要に応じて開催する。 ・SSWの活動を通して外部機関との連携を図り、ケース会議(校外)を定期的に行う。(年12回) ・専門職種(SSW・SC・CC)の実践報告会を行う。(年1回)</p> <p>(4) ・生徒・保護者・学校の実態に応じた高校生活支援カードを作成し、記載の量・質を向上させる。障がい者手帳を持っている生徒に対し、個別の支援計画の作成を100%実施する。また、課題を抱えた生徒に対して必要に応じて支援計画を作成する。 ・高校生活支援カード2を活用し進路指導GやCCとも連携しながら支援を行っていく。</p>	<p>(1) ・教員間の情報交換はあったが、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた全体研修は実施できていない(△) ・岸和田市、貝塚市、泉佐野市の中学校とトータル4回の情報交換会を実施した。(○) ・クラスごとに清掃活動の頻度は異なり足並みをそろえて清掃活動を実施できなかった。(△)</p> <p>・毎月、相談室だよりを発行し、多くの情報提供を行った。(○)</p> <p>(2) ・昨年作った人権教材をブラッシュアップしより良いものに仕上げることができた。(○) ・支援人権室を中心に人権HRをコーディネートした。2月6日に生徒向け人権後援会を実施した。(○)</p> <p>(3) ・支援人権会議は、必要に応じて開催することができ、個々の生徒の状況に応じた支援をすることができた。ケース会議と同時実施となることが多く今年度はすでに40回を超える。(◎) ・SSWを有効活用することにより、社会福祉協議会等の外部組織との連携ならびに、指導困難な家庭における入り込みを行うことにより、支援の充実を図ることができた。(○) ・SSW・SCは同様の課題や同ケースを持っており4回の会合を持てたが、CCとは対象者や時間が重ならず3者合同の実践報告会は実施できていない(△)</p> <p>(4) ・高校生活支援カードは、昨年改良したものを使用し、今年度は問題となる点は発見できなかった。教員が把握できた、課題を抱えた生徒に対して支援計画を作成できた。(○) ・高校生活支援カード2の活用までは実施できていない(△)</p>

<p>4 キャリア教育の推進</p>	<p>(1)ハローワークや若者サポートステーション、地域の企業等と連携をして、望ましい職業観・勤労観を養う。</p> <p>(2)自己理解を深め、主体的に進路選択できることをめざし、職業適性や個々の特性を考慮した進路選択支援と職業能力の充実による就労への準備を進める</p> <p>(3)モノづくりコンテストへの参加</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「若者支援人材養成事業」等のキャリア教育支援事業を通じて、生徒の「仕事」に対する意識を高めさせる。 ・学校斡旋就職希望者に対しては、安定した求人企業の確保と、新規求人企業開拓に努める。 ・在校生に対しては、就労感醸成のため、ハローワークと連携して、アルバイト先の紹介に努める。 ・特別な支援を必要とする生徒への就労移行サービスの活用を進める。 ・希望者にインターンシップの機会を提供する <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期に各種検査を実施することにより、自身の興味・関心や適性を理解させる。 ・外部講師による講演や相談を実施して、「働く」ことの意味や意義についての理解を深めさせる。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モノづくり教育により、アイデアを具現化する方法を身に付けることにより、自信やチャレンジ精神を養う。 <p>今年度は大阪府児童生徒発明工夫展への参加を促す。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の就職内定率を90%に引き上げる。(H27は85%) ・CCを有効に活用して新規求人企業の開拓を2件以上行う。 ・在学中のアルバイトを含む就業率70%以上にする。(H27は65%) ・CC・SSWを窓口外部機関との連携を図る。(月1回程度) <p>・インターンシップの実施</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年に職業適性検査等を1回実施する。 <p>・外部講師による進路講演を年2回以上実施する。</p> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モノづくり系コンテストへの参加者数と入賞数。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職希望者41名のうち39名が就職し内定率は95%にのぼった。(◎) ・在学中のアルバイトを含む就業率は、65%と横ばいである。(△) ・CC・SSWを窓口サポートステーション等の外部機関とスムーズに連携を図ることができた。今後も継続して外部機関の連携・協力を進めていく。(○) ・インターンシップは希望者がいなかったため実施していない(△) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、本校生徒の実情に合わせ職業適性検査ではなく性格検査に切り替えた。年2回実施できた(○) ・外部講師による進路講演を3回実施し、進路決定につなげることができた。講師は企業経営者、ハローワーク職員、映画「お父さんは高校生」の实在モデル。(○) <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府児童生徒発明工夫展に2作品を出品させた。うち1点が「入選」に入り、当該生徒の自信につながっただけでなく、伝達表彰を通じて多くの生徒の意欲を高めた。(◎)
<p>5 地域連携の推進</p>	<p>(1)地域イベントへの参加促進</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校で学んだことを関空旅博や環境イベントで発表する。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントへの参加実績(今年度2回) 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関空旅博へエントリーしたが、仕事が休めず生徒の参加がなかったため、教員だけで実施した。(△) ・地域の休耕田を活用したハーブづくりに4名の生徒が参加した。また泉佐野駅前イルミネーションを製作・設置した。(◎)